

# 2014年度(2015年3月期) 第1四半期決算説明会



2014年7月31日

大正製薬ホールディングス株式会社

執行役員 齊藤 隆



# 2014年度第1四半期決算：概要

(億円)

	2013年度 1Q	2014年度 1Q	前同比増減	
売上高	682	684	+2	+0.3%
セルフメディケーション	424	412	▲13	▲3.0%
医薬	257	272	+15	+5.6%
営業利益	90	86	▲4	▲4.9%
経常利益	115	108	▲7	▲6.2%
四半期純利益	74	67	▲8	▲10.1%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2014年度第1四半期の概況（1）

## • セルフメディケーション事業（大正製薬 国内）

- 第1四半期売上高：やや弱めの推移ではあるが、ほぼ想定線
- リポビタンシリーズ、リアップシリーズともに、  
駆け込み需要の反動と思われるマイナス幅は  
想定範囲内

## • セルフメディケーション事業（海外）

- ドリンク剤：主に為替の要因で増加  
(タイ：パーツは円安の影響)
- OTC医薬品：現地通貨ベースでは引き続き伸長するも、  
インドネシア：ルピアが円高の影響、  
タイ政情不安による一時的な消費鈍化により  
アジアでの売り上げは微増

＜ご参考：市場の状況＞

### – 国内OTC医薬品市場

2014年4～6月：前年同期比▲6.4% （インテージSDIデータ、金額ベース）



# 2014年度第1四半期 主要ブランド売上高（SM国内）

（億円）

	2013年度 1Q	2014年度 1Q	前同比増減	
			▲	%
リポビタンシリーズ	169	163	▲6	▲3.3%
パブロンシリーズ	42	41	▲1	▲2.5%
リアップシリーズ	33	30	▲3	▲8.1%
リビタシリーズ	11	10	▲2	▲14.7%
胃腸薬シリーズ	10	9	▲0	▲3.0%
ナロンシリーズ	10	9	▲1	▲8.3%
コーラックシリーズ	8	8	▲1	▲10.4%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2014年度第1四半期の概況 (2)

## • 海外売上高

主な内訳

(億円)

	2013年度 1Q	2014年度 1Q	前同比増減	
海外事業	62	66	+3	+5.5%
SM海外	62	66	+3	+5.5%
海外ドリンク剤	23	24	+1	+3.8%
海外OTC医薬品	37	40	+2	+6.2%
アジア	32	33	+0	+0.5%
その他	5	7	+2	+45.0%

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2014年度第1四半期の概況 (3)

## • 医薬事業

### – 主要製品の実績(前年同期比)

#### • 感染症領域

– ゾシン(+0.1%): 適応拡大が引き続き寄与

– クラリス(▲18.6%): 薬価改定、抗菌薬市場の縮小等により減少

#### • 炎症・免疫領域

– エディロール(+18.8%): 骨粗鬆症治療のベース薬として浸透

– ボンビバ: 2013年8月に発売、採用施設拡大中

#### • 代謝性疾患領域

– ルセフィ: 2014年5月に発売、安全性最重視で情報提供を強化

### <ご参考: 市場の状況>

– 医療用医薬品市場: 前年同期比▲2.5%

・当社の主力市場である抗菌薬市場は▲10.4%

(経口: ▲13.5%、注射: ▲6.4%)

(Copyright 2014 IMS ヘルス、JPM2013年4月-2014年6月をもとに作成、無断転載禁止)



# 2014年度第1四半期 医薬事業：主要製品売上高

(億円)

	2013年度 1Q	2014年度 1Q	前同比増減	
<b>感染症領域</b>				
ゾシン	59	59	+0	+0.1%
クラリス	36	29	▲7	▲18.6%
オゼックス	18	13	▲4	▲25.0%
<b>炎症・免疫領域</b>				
エディロール	28	34	+5	+18.8%
ボンビバ	-	6	+6	-
<b>代謝性疾患領域</b>				
パルクス	20	18	▲3	▲13.0%
ルセフィ	-	24	+24	-

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2014年度1Q：売上高・利益の増減要因

(前同比増減額)

売上高 (+2億円)	セルフメディケーション事業 (▲13億円)	医薬事業 (+15億円)
営業利益 (▲4億円)	売上総利益* +7億円 (売上総利益率* 前期62.5% → 当期63.3%)	
	販管費 +11億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	▲2億円
	・広告宣伝費	▲0.3億円
	・販売促進費	+15億円
	・人件費	▲6億円
・その他	+4億円	
営業外損益：持分法投資利益 ▲3億円		

\*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算





# 2014年度：業績予想

第2四半期累計、通期予想について  
売上高、利益ともに、5月時点の予想を変更しない

(億円)

	2014年度 2Q累計予	2014年度 通期予	前期比増減	
売上高	1,470	2,990	+30	+1.0%
セルフメディケーション	931	1,843	+25	+1.4%
医薬	539	1,147	+5	+0.4%
営業利益	150	305	▲112	▲26.8%
経常利益	190	385	▲127	▲24.9%
当期純利益	120	255	▲72	▲22.0%
EPS(円)	148.02	314.56	-	-

予=予想

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2014年度の取り組み

- **セルフメディケーション事業（大正製薬 国内）**
  - 中期的なブランド強化・育成の時期
    - リポビタミンシリーズ：新規ユーザー拡大
    - パブロンシリーズ：製品リニューアル
    - リビタシリーズ：メタボ領域拡充
    - 通販：製品ライン拡大
- **セルフメディケーション事業（海外）**
  - 連結売上高比率10%の早期達成
    - 東南アジアを中心とした、成長市場での事業展開
    - 買収した事業をプラットフォームとし、各国での存在感を高め事業を拡大



# 2014年度予想 主要ブランド売上高（SM国内）

（億円）

	2014年度 2Q累計予	2014年度 通期予	前期比増減	
リポビタンシリーズ	380	668	▲6	▲0.9%
パブロンシリーズ	103	260	+0	+0.0%
リアップシリーズ	70	142	▲14	▲8.9%
リビタシリーズ	23	48	+1	+1.9%
胃腸薬シリーズ	20	42	▲1	▲2.4%
ナロンシリーズ	20	41	▲1	▲1.3%
コーラックシリーズ	18	36	+0	+1.1%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2014年度予想：海外事業

## 主な内訳

(億円)

	2014年度 2Q累計予	2014年度 通期予	前期比増減	
海外事業	137	277	+23	+9.1%
SM海外	137	277	+23	+9.1%
海外ドリンク剤	48	96	+6	+7.1%
海外OTC医薬品	84	172	+17	+11.1%
アジア	71	146	+14	+11.0%
その他	13	26	+3	+12.7%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2014年度の取り組み

## • 医薬事業

### － 販売、マーケティング

- 感染症領域のリーディングカンパニーとして  
情報提供の更なる強化
- 骨粗鬆症治療剤「エディロール」「ボンビバ」の育成  
炎症・免疫領域の拡大
- 2型糖尿病治療薬「ルセフィ」新発売  
代謝性疾患領域への新たな挑戦

### － 研究開発

- 「感染症」「整形外科疾患」「精神疾患」「代謝性疾患」  
を重点領域とする、新薬創製に向けた取り組み



# 2014年度予想

## 医薬事業：主要製品売上高

(億円)

	2014年度 2Q累計予	2014年度 通期予	前期比増減	
<b>感染症領域</b>				
ゾシン	130	270	+16	+6.3%
クラリス	60	145	▲19	▲11.6%
オゼックス	31	69	▲3	▲4.1%
<b>炎症・免疫領域</b>				
エディロール	71	155	+14	+10.3%
ボンビバ	12	30	+18	+144.5%
<b>代謝性疾患領域</b>				
パルクス	35	70	▲9	▲11.2%
ルセフィ	24	27	+27	-

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2014年度予想：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (+30億円)	セルフメディケーション事業 (+25億円)	医薬事業 (+5億円)
営業利益 (▲112億円)	売上総利益* +6億円 (売上総利益率* 前期62.4% → 当期62.0%)	
	販管費 +118億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	+14億円
	・広告宣伝費	+34億円
	・販売促進費	+25億円
	・人件費	+6億円
・その他	+38億円	
営業外損益：持分法投資利益 14億円(前期比▲10億円)		

\*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 医療用医薬品：開発品の状況

- 2013年度通期決算発表時(5月12日)からの変更点

(2014年7月31日現在)

TS-071* (販売名:ルセフィ)	
特長他	SGLT2阻害作用
適応症	2型糖尿病
変更点	承認 → 削除(2014年5月23日発売)

\*TS-071: 一般名:ルセオグリフロジン水和物





# 医療用医薬品：新薬パイプライン(1)

## 大正製薬開発品：フェーズ2～フェーズ3(国内)

(2014年7月31日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ3			
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症等	トクホン共同	トクホン
CT-064* (経口)	<u>ビスホスホネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
フェーズ2			
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
TS-091 (経口)	<u>過眠症状改善作用</u> 中枢性過眠症	自社	大正製薬

\*CT-064：一般名：イバンドロン酸ナトリウム水和物、中外製薬における開発コードはRG484



# 医療用医薬品：新薬パイプライン(2)

## 大正製薬開発品：フェーズ1(海外)

(2014年7月31日現在)

	対象疾患	自社／導入	国内／海外
フェーズ1			
TS-071*	2型糖尿病	自社	海外
TS-111	うつ病	自社	海外

\*TS-071：一般名：ルセオグリフロジン水和物、国内販売名：ルセフィ



# 研究開発費の動向

2014年度第1四半期実績:49億円(前期比▲2億円)

(内訳)SM事業:+3億円、医薬事業:▲4億円

2014年度予想:233億円(同 +14億円)

(5月時点の予想から変更なし)

